

福知山市自治基本条例推進委員会

Aグループ 成果報告



令和7年3月25日（火）

提案No. 4

障害のある人や様々な悩みを抱え孤立しがちな子どもや家族に市民どうしが互いに関心を持ち、手を差し伸べ、誰も孤立させない環境をつくろう

福知山市自治基本条例推進委員会（Aグループ）

I 提案の実現に向けた具体的な取組

- ① つながりの場の創出と交流の促進
- ② 就労支援の強化
- ③ 相談支援と情報提供
- ④ 市民の理解促進とネットワーク形成
- ⑤ 活動支援・拠点の確保
- ⑥ 防災や自治会などとの連携



① つながりの場の創出と交流の促進

➤ 現状の課題

- ・ 障害のある人や孤立しがちな方がつながる場が少ない
- ・ 不登校の子供は在学中は学校とのつながりがあるが、卒業後はつながりが断たれ、引きこもりに至るケースがある

➤ 必要な取組

- ・ 同じ環境や悩みを抱える人が語り合い、交流できる「つながる場」の創出
- ・ 引きこもりがちな方でも気軽に参加できる場が重要

➤ 進め方

- ・ まずは当事者同士のみでつながる場を設け、ニーズを把握しながら運営
- ・ 徐々に一般の方への啓発や理解促進につなげる

➤ 実施方法の意見

- ・ 地域主体での実施が望ましい（民生委員、地区福祉推進協議会、自治会など）
- ・ 一方で、同じ地域では参加しにくいという声もあり、NPOなどの団体が実施

② 就労支援の強化

➤ 必要な取組

- ・ 能力に応じた就労支援
 - 障害の種類や度合いに応じた就労環境の整備が必要
 - 挑戦や失敗が責められない、職場の理解促進が重要
- ・ 「見える化」の推進
 - 求人情報では業務内容や職場環境が見えにくいという課題
 - 仕事内容や求められるスキル、環境などの情報提供

➤ 具体的な提案

- ・ 企業内に障害者の就労を専門的に支援する担当者を配置
- ・ 職場環境や業務の「見える化」による、求職者の不安軽減とミスマッチの防止

③ 相談支援と情報提供

➤ 現状の課題

- ・ 悩みが生じた際に「どこに相談すればよいかわからない」という声が多い
- ・ 市役所の窓口が子ども・高齢者・障害者などで分かれており、利用者が混乱しやすい

➤ 必要な取組

- ・ 窓口の一本化や相談会の実施で、相談しやすい体制を整備
- ・ こども園、保育園、小中高の学校に相談窓口のチラシ配布による早期支援の周知
- ・ I C T の活用で、オンライン相談ができる仕組みの導入

➤ 進め方

- ・ 家族、民生委員、地域包括支援センター、近隣住民、友人・知人など、身近な人々が気づきやすい環境づくり
- ・ 日常的な交流から「もしかして」と気づいた際に積極的に相談する意識の醸成が重要

④ 市民の理解促進とネットワークの形成

➤ 現状の課題

- ・ 当事者以外は、障害や様々な悩みに対する問題意識を持ちにくい
- ・ 障害や悩みについて「正しく知る」機会が不足している
- ・ 支援団体がそれぞれ独自に活動しており、市全体の課題やニーズ、取組情報の共有が不十分

➤ 必要な取組

- ・ 啓発イベントの実施で関心を持ってもらう機会を創出
- ・ 支援団体同士がネットワークを形成し、横の連携を図ることで、より良い支援体制を構築

➤ 行政の支援

- ・ 啓発イベントや情報共有の場の創出において、行政と連携して取り組む体制づくりが重要



⑤ 活動資金・拠点の確保

➤ 現状の課題

- ・ 各種活動の実施には資金や場所の確保が不可欠

➤ 必要な取組

- ・ クラウドファンディングの活用による資金調達
- ・ 企業や行政からの補助金の活用で財源の確保
- ・ 廃校の活用など、地域の公民館や既存の地域資源を活用した活動拠点の整備

➤ 進め方

- ・ 様々な手法を組み合わせることで、持続可能な支援体制の構築を目指す



⑥ 防災・自治会との連携

➤ 現状の課題

- ・ 福知山市では災害が多いため、災害時に助け合える環境づくりが重要
- ・ 障害のある人や孤立している方への情報伝達や避難支援の不足が懸念

➤ 必要な取組

- ・ 自治会内での把握や連携を進め、要支援者への支援体制を整備
- ・ 防災活動を通じた地域の見守り体制の強化

➤ 進め方

- ・ 要支援者名簿の登録推進
- ・ 民生委員を中心とした地域情報の把握
- ・ 自主防災組織による定期的な訓練の実施
- ・ お祭りや地域行事を活用した交流の促進

➤ 実施方法の意見

- ・ 個人情報の問題に配慮しつつ、防災を切り口にした普段からの見守りにつなげる工夫が必要



提案No. 5

学び続けたい大人たちが、互いに学び合い、教え合う環境をつくり、地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくろう

福知山市自治基本条例推進委員会（Aグループ）

I 提案の実現に向けた具体的な取組

- ① 学び合いの場の創出
- ② 地域住民の交流と学びのネットワーク形成
- ③ 学びを実践につなげる環境整備
- ④ ICTの活用と情報提供



① つながりの場の創出と交流の促進

② 地域住民の交流と学びのネットワーク形成



➤ 現状の課題

- ・ 地域コミュニティセンターや公民館では、様々な講座や研修が開催
- ・ 地域のサロンや老人会でも、市や専門講師による出前講座が開催
- ・ 情報はチラシやホームページ、回覧板などで周知されているが、目にとまりにくいという問題がある

➤ 必要な取組

- ・ 既存の場を活用し、積極的に参加する意識を持つ
- ・ 実施側は、より目にとまりやすい周知方法の工夫が必要
- ・ 私たち自身も、地域の活動情報に関心を持ち、意識することが重要

➤ 進め方

- ・ 参加することで、新たな知識や出会いが生まれ、互いに学び合える環境やコミュニティ形成につながる



③ 学びを実践につなげる環境整備

➤ 現状の課題

- ・ 学び合いの場を創出しても、実践する場がなければ地域課題の解決にはつながらない

➤ 必要な取組

- ・ 学んだ住民同士が、自治会や地区公民館などでワークショップを開催し、学びを活かした意見やアイデアのアウトプットの場をつくる
- ・ 地域と福知山公立大学が連携し、産学官民の協力による共同研究や課題解決の取組を推進

➤ 進め方

- ・ 多様な立場の人が関わることで、地域の持続的な発展に寄与する

➤ 実施方法の意見

- ・ 住民の学びが地域活動に活かされ、より効果的な地域課題の解決につながる

④ ICTの活用と情報提供

➤ 機会

- ・ オンラインセミナーや動画配信が容易になり、先進的な取り組みを気軽に学べる環境が整っている
- ・ 自分たちの地域活動を発信する手段としてもICTが有効

➤ 必要な取組

- ・ ICTの活用で、学び合いの機会を増やし、より多様な視点やノウハウを取り入れる
- ・ 地域活動の成果や取り組みを発信することで、他地域や次世代への広がりを促進

➤ 進め方

- ・ 地域課題の解決に役立つ先進事例の共有
- ・ 地域住民の意識向上と学び合いの促進
- ・ 地域の取り組みを外部へ発信することで、共感者や支援者の増加



提案No. 6

動画やデジタルを活用した「ICT教育」を推進し、一人ひとりの状況にあわせたきめ細かな学びを実現させると同時に、生きる力を集団で学ぶ、成熟した学びをつくっていこう

I C T 教育の推進と地域課題解決への活用（1）

➤ I C T 教育の現状

- ・ ICTは仕事や日常生活で不可欠な存在
- ・ 小学校でもタブレット端末の活用が進み、子どもたちは自然にICTに親しんでいる
- ・ 世代間でのICTハードルの差は小さくなりつつあるが、依然として高齢者や障害のある方には課題が残る

➤ 地域活動における I C T の活用

- ・ 自治会の回覧をLINEで配信、地域会議をオンライン開催するなどの事例が増加
- ・ ICT活用の有無が世代間格差や不公平感につながる懸念



I C T 教育の推進と地域課題解決への活用（2）

➤ 必要な取組

- ・ スマホ講座やパソコン講座などを公民館で実施し、学びの場を提供
 - 高齢者の「孫とテレビ電話をしたい」「通販を利用したい」などの自然な動機が学びにつながる
 - 学生が講師を務めることで、世代間交流の場としても機能
- ・ 地域団体やN P Oを活用し、多様な地域での講座実施を推進

➤ ハード面の整備

- ・ シンプルスマホや音声読み上げ機能、文字起こし機能など、誰もがICTを活用できる機器の整備が重要
- ・ 公共施設に Wi-Fi 整備を行うことで、若者が集う場や交流の場としての役割を強化

I C T 教育の推進と地域課題解決への活用 (3)

➤ ICTを活用したモデル事業の推進

- ・ 福知山公立大学の情報学部と連携し、地域をICT技術の実験の場として活用
- ・ 防災、福祉、獣害情報の管理など、地域課題解決のためのモデル事業の導入

➤ 行政や事業所の役割

- ・ 使いやすい機器の紹介や貸し出し制度の創設により、子どもから高齢者、障害のある方までが同じように学べる環境づくりを支援

➤ 提案実現に向けた要点

- ・ 行政・事業所・地域が協働し、ICTを活用した豊かな社会の実現を目指すことが重要

Thank you

Aグループ

近藤 恵子

仁張 衛

和田 理恵

土佐 祐司

矢野 つる代

豊島 永子

山地 奈津美